

# 科学

2005年(平成17年)6月16日 木曜日

科学

科学

科学

科学

## 大学植物園の役割探る 京大で公開シンポ

自然観察会など地域の人にも親しまれて  
いる京大理学研究所付属植物園(5月23  
日、京都市左京区・京大北部構内)



大学法人化で岐路に立つ京  
都大など大学植物園の将来を  
考える公開シンポジウム「植  
物園はいまー(京大植物園を  
考える会主催)」がこのほど、  
京大時計台記念館(京都市左  
京区)で開かれ、岩槻邦男・  
兵庫県立人と自然の博物館長  
らが、社会における植物園の  
役割について話し合った。

岩槻館長は植物分類学の第  
一人者で、京大教授のとき  
に京大植物園の管理を担当、  
東京大理学部付属植物園(小  
石川植物園)の園長も務める  
など、国内外の植物園に詳し  
い。  
岩槻館長は、植物園には研  
究利用のほかに、科学的思考  
を養う場、憩いの場としての

機能があると指摘。「自然への  
興味を持った子どもたちを、  
親も含めてどのようにフオー  
ーしていきけるか」と課題を挙  
げ、「植物園を大切にすること  
とは文化を大切にすること。  
博物館のような研究機能も持  
たせ、社会的要求にこたえて  
いくことが必要」と話した。  
一方、湯本貴和・総合地球  
環境学研究所教授(植物生態  
学)は「フィールドに出る前  
に京大植物園で研究の方向性  
を確かめ、自然の感覚をつか  
んだ。研究室のそばに植物園  
が構内にあることは大切」と  
自らの経験を元に、キャンパ  
スに植物園がある価値を強調  
した。  
考える会代表で司会を務め  
た川那部浩哉・滋賀県立琵琶  
湖博物館長は「京大植物園で  
考えたことを他の植物園に広  
げていければ」と、今後の議  
論に期待を込めてシンポジウ  
ムをまとめた。